
輪廻の森

長谷部弘明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

輪廻の森

【Nコード】

N3176D

【作者名】

長谷部弘明

【あらすじ】

学術研究の一環として、山奥にある打ち捨てられた村落の跡を訪れていた主人公。嘗てこの地で生きた者に思いを馳せる彼は、歴史に埋もれた者らとの邂逅を果たす。

徐々に暑さが和らぐ季節に、木々を揺らす風を受けながら畦道を歩いていた。至る所が崩れ、下草に覆われているが、嘗ては田圃に通う農夫によって日々踏み固められていた筈だ。昭和の大合併で地図から姿を消した村を、幾人が記憶に留めているのだろうか。誰も踏み込まぬ山奥で、打ち捨てられた廃屋と、この場所だけが僅かに在りし日の面影を残している。

鬼伏山という名の由来は、山を通る人々を襲う鬼がいた為とか、平家の落ち武者が潜んでいたからと言われているが、定かではない。確かなことは、ここに古くから人の営みがあったということである。豊かさとはかけ離れた僻地で土を耕し、水田に稲を植える。それは、親から子へと受け継がれてゆくのだ。

この村にはあるものが欠けていた。どこを探しても、寿命を全うした者が葬られるべき墓所を見つけ出すことができないのだ。彼らが先祖の供養を疎かにしたのではない。ただ、墓を定める必要が無かったからだ。死した者が向かう先は、金色に輝く稲穂の下にある。長きに渡って、先人の血は純白の米粒となって生きてゆく人々を満たしていった。

陽光が弱まり始めた草叢に立ち、瞼をゆつくりと閉じる。迫り来る闇夜を前に、妖しげな燐光を放ちながら頭を垂れる稲穂が見えるような気がした。骸を糧とした彼らの所業が、祖先を敬う民を示すのか、或いは縁者の血肉を貪る悪鬼の証明となるのか。それを伝える記録は何も残されていない。ただ私には、森を振るわせる風の音が、異形と人の狭間を生きた者らの慟哭に聞えた。

（後書き）

吸血鬼絡みの話を考える内に書いていました。ぎりぎりそれと分かるものを目指した結果、この様になった次第です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3176d/>

輪廻の森

2010年12月5日00時20分発行